

鉄道のまち -美濃太田駅開業100年- 文化の森 ☎28-1110

今年で美濃太田駅は開業100年。「鉄道のまち」の歴史の一部を紹介していきます。



1921-2021

にぎわう美濃太田駅

明治末に「飛騨縦貫鉄道」（現在の高山本線）建設への動きが活発になり、大正7年にその事業化が決定しました。岐阜から美濃太田までが大正10（1921）年11月に開通、それに伴って美濃太田駅が開業しました。今から100年前のことです。翌年には下麻生まで延伸し古井駅も設置されます。美濃太田駅は、各方面からの鉄道が乗り入れる東海地方の交通の結節点です。

みのかも文化の森（市民ミュージアム）では、美濃太田駅開業100年に合わせ、今年の12月から「鉄道のまち」展を開催します。これまでの鉄道の歴史をはじめ、駅を中心とした町の発展の様子を紹介し、あわせて人々の心の中にある鉄道や駅の記憶をたどり、思いを深める場に行いたいと考えます。

このコラムでは、企画展の開催に合わせ、「鉄道のまち」の歴史の一部を紹介していきます。

左の写真は、昭和40年代の美濃太田駅前の朝の一こま。改札を出て職場や学校に向かう人たちや大きな風呂敷包みをぶら下げて足早に駅に向かう男性、乗客を乗せて発進しようとしているタクシーなど多くの利用者でにぎわっています。写真中央に電話ボックスが2つ見えます。



▲昭和40年代の美濃太田駅前

文化の森企画展「鉄道のまち」展
（12月18日～3月6日）を開催
美濃太田駅や鉄道に関する写真や
資料を文化の森までお寄せください。